

『唯識論同学鈔』の編纂上の問題に関する一考察

城 福 雅 伸

『唯識論同学鈔』（以下『同学鈔』と略す）は、日本唯識思想史上において最も重要とされて来た典籍の一つである。しかしそれにも拘らず現時点、知りうる限りでは『同学鈔』のものについて研究されたものは辞典類や解題等を除いては稀であり、『同学鈔』の内容的な研究はもとより、編纂に拘る諸問題についても未だつきつめた研究はなされていない様に思われる。

今回はまず『同学鈔』を研究する最初の一步として、『同学鈔』の編纂上の問題、特に編纂者が誰であるかという事を中心に若干の考察を加えてみたい。なお『同学鈔』に関するその他の諸問題は機会があればその折に論じたい。

『同学鈔』の編纂者については未だ一定した説がない様に思われる。その各説を窺うと多少の異同はあるが『同学鈔』の編纂に貞慶（一一五五—一二二三）が指導、監修あるいは編纂（集）という形で拘ったか否かという点で大きく二分できるものと思われる。

本論文においては『同学鈔』はその成立段階に於て時間的に早い成立部分には興玄の編纂したものが入っているが、ほぼ大部分は良算が編纂したと考えるものであり、貞慶に関しては編纂にほとんど拘らなかつたという立場をとるものである。

まず良算が『同学鈔』の大部分を編纂したという事については、

(A) 良算は伝記等今一つ不明な点が多い学僧であるが『五教章通路記』等諸資料を窺うと、師の貞慶に勝るとも劣らぬ大

学僧であり、力量の点で問題がない事。

(B) 『同学鈔』の書写者の一人である範憲の奥書に「良算同学鈔」とあり、また龍谷大学図書館所蔵の清慶の写本になる『同学鈔』（以下龍大本と略す）の第六卷には「良算所撰之同学抄」、「良算等同学抄」、「良算等所撰於之同学鈔」などと記されている事。

(C) 『同学鈔』の成立当時の奥書や識語には良算の名が十一ヶ

所も見出せるが、他には興玄の名が二ヶ所存在するのみである事^②。

などの理由をあげたい。これらの事から良算が『同学鈔』の編纂に拘った事は、まちがいになく、その大部分を編纂した可能性が高いと考えられる。

次に興玄について考察してみたい。『同学鈔』の成立当時の奥書に良算と共に名を見出し得るのは先の(C)で触れた如く興玄のみである。よって『同学鈔』の編纂に興玄が拘った事はまちがいないと見てよいであろう。

そこで次に良算と興玄がそれぞれの程度の分量を編纂したのか、また共同して同時に編纂にあつたのかどうかが問題となるが、これについては現研究段階では明確には出来な^い。ただし推論が許されるならば次の如くである。

『同学鈔』の成立当時の奥書を年代順に並べた時、興玄の奥書は『同学鈔』中の記名のある成立当時の奥書十三ヶ所の内、最初の二ヶ所のみに限られ、しかも二ヶ所とも建久五年(一一九四)に限られる事から興玄の編纂した部分は初期の一部分に限られる可能性が高い。更に興玄の奥書の一つに「或守先哲筆跡。或任師匠遺訓。多加愚謀。狼汗真説。」^③という一文が見えるが、「師匠遺訓」という記述は、この当時既に興玄の師が示寂していた事を示すものと考えられる。諸資料^④の示す様に興玄の師が貞慶だとすれば、この奥書の年代であ

『唯識論同学鈔』の編纂上の問題に関する一考察(城 福)

る建久五年(一一九四)には貞慶は示寂していたことになる。

ところが実際に貞慶が示寂したのは建暦三年(一一二三)であるからこの建久五年(一一九四)には貞慶は存命中であったのである。よってここにいる「師匠」は貞慶ではないという事が明らかになる。そこでもし興玄が同時に二学匠以上に仕えていなかったとすれば、この興玄の奥書がある『同学鈔』の一部分は興玄が未だ貞慶に師事していない時期のものと考えられないであろうか。また良算の奥書には例えば

於法勝寺西門邊抄。三十講延引之間。宿所徒然。仍於奈良未沙汰之處繼而記之^⑤。

あるいは

只是以反舊抄爲規模。少少入愚推畢^⑥。

等と記し、良算が単独で編纂している事は窺えても彼が他の学僧と共同して編纂に取り組んでいた事が窺える様な一文は無いようである。よって良算と興玄が共同して編纂にあつた可能性は低いと考えられる。

よって興玄の編纂した部分は奥書から推論する限りでは非常に少ないため、良算が『同学鈔』の大部分を編纂したと考えられる。

このように考察して来ると良算、興玄以外の学僧が『同学鈔』の編纂に拘ったとは考え難いのであるが、富貴原草信博士等は『同学鈔』の編纂には貞慶の指導、監修があつた等の

旨を論じておられる。⁽¹⁸⁾

そこで次に『同学鈔』の編纂に貞慶が拘ったか否かという事を論じてみたい。本論文において『同学鈔』の編纂に貞慶がほとんど拘らなかつたとするのは次の理由による。

(一)『同学鈔』の成立当時の奥書、識語に全く貞慶の名が見られぬ事。

(二)先の(B)で触れたような「良算同学鈔」、「良算等所撰同学鈔」という記述について、もし貞慶が直接編纂に拘つていたら、これらの一文は当然日本法相唯識思想史上最も有名な大学僧の一人であり、良算の師でもある貞慶の名を先に記すはずである。ところがこれらの一文にはどれも貞慶の名が見出せないという事。

(三)『明本抄日記』の遺言で貞慶は示寂する数ヶ月前に『尋思鈔』に関して心配を及ぼしているが、この時点で未完成であり、貞慶が編纂に拘っていたとすれば、当然何等かの言及がなされるであろう『同学鈔』について何等語られていない事

などである。

先述した如く富貴原博士は『同学鈔』の編纂には貞慶の指導、監修があつたという立場をとっておられるのであるが、これは『同学鈔』成立当時の興玄の奥書に

或守先哲筆跡。或任師匠遺訓。多加愚謀。猥汗真説。⁽¹⁹⁾

という一文がある事と、興玄が貞慶の弟子であつた事から論じておられるのである。しかしこの点に関しては先に述べたように、この奥書にある「師匠」は貞慶ではないことが判明したため、この一文に基づいて『同学鈔』の編纂に貞慶の指導、監修があつたとする富貴原博士の説が誤りである事は明らかである。また貞慶が『同学鈔』を編纂したと伝える古記録は、現時点知る限りでは、結城令聞博士の『唯識学典籍志』にあげられている「瑞玄」、⁽²⁰⁾「謙順」両録の記述及び「諸宗章疏録」等の記述であるが、これら三本の記述はほぼ同文である。今『諸宗章疏録』によると

良算興玄等艸創、貞慶大徳編集、置今題目、⁽²¹⁾

とある。しかしこの記述が誤りである事は結城博士が既に前掲書の中で指摘されている。⁽²²⁾すなわち『同学鈔』の編纂途中で貞慶が示寂しているのである。このように考察して来ると貞慶が『同学鈔』の編纂に拘つたとは考え難いのである。

次に龍大本『同学鈔』には、その書写者である清慶のものと思われる識語で興味ある一文が存在するのでその一部を新資料として紹介したい。(尚原文には送りがない点はない)

傳聞興玄良算拾古言。尋先訓添私懷。決擇第一之撰篇。成熟遂使般若臺之日揚文義盡美。而准因明同学記兩賢之作。而是稱同学抄。暗應阿難同學經之号。自貞擲筆而痕於首題。從余以來衆人舉而唱同学抄。末懸賢覽或重云。観苦問答抄。⁽²³⁾

これによると興玄、良算の編纂していたものに貞慶が自ら筆を取って『同学鈔』という名をつけた事が窺われるが、この記述と先の『諸宗章疏録』等の一文が題目を貞慶がつけたという事で符号する事から、あるいは貞慶は『同学鈔』という題目をつけただけかもしれない。それを後の人が誤って編纂者の一人として数えたとも考えられないこともないのではなかるるか。

富貴原博士は同学の人々によって編纂された事を『同学鈔』という名がよく表わすと論じておられるが、この清慶の識語による限りでは単に同学の人々に編纂されたために『同学鈔』というのではなく、『阿難同学経』や『因明同学記』に因んだ名であるという事になる。また『同学鈔』は『観苦問答抄』とも呼ばれたという事である。ここに『同学鈔』という名が『阿難同学経』や『因明同学記』の名に因むという事、及び『同学鈔』が『観苦問答抄』ともいわれた事を、『同学鈔』の題目の由来と異名に関する一つの仮説としてみたい。

以上のように考察した結果から推測してみると興玄の編纂していた鈔物を良算が引きつぎその大部分を完成し、その途中で『同学鈔』という題目のみを貞慶がつけたと考えられない事もないのでないか。

すなわち『同学鈔』はその一部に興玄の編纂した部分が入

っているが、大部分を良算が編纂したと考えられ、貞慶は直接には編纂に拘らなかつたと考えられるのである。よって『同学鈔』の編纂者は良算と興玄であり、特に良算が『同学鈔』の大部分の編纂者と見てよいと考える次第である。

- 1 大正七二・四五六b c。
- 2 『明本抄日記』(大正六九・五〇六b c)等。
- 3 大正六六・二六a。
- 4 龍大本『同学鈔』第六卷の一。
- 5 龍大本『同学鈔』第六卷の二。
- 6 龍大本『同学鈔』第六卷の八。
- 7、8 『同学鈔』の奥書を大正蔵経、大日本仏教全書及び龍大本の三本で補って考察した。
- 9 仏全七六・二六二b。
- 10 『諸嗣宗脈記』「法相宗派図」、『本朝高僧伝』(仏全六三・九二)。
- 11 大正六六・四九四c。
- 12 大正六六・五九五b。
- 13 富貴原章信著『日本中世唯識仏教史』一〇〇〜一〇一頁及び、太田久紀著仏典講座『観心覚夢鈔』二九頁等参照。
- 14 大正六九・五〇五c b。
- 15 9に同じ。
- 16 結城令聞著『唯識学典籍志』四五三頁参照。
- 17、18 『大日本資料』第四編之十二、三〇四頁。
- 19 結城令聞著『唯識学典籍志』四五三〜四五四頁参照。
- 20 龍大本『同学鈔』第五卷の三。
- 21 『唯識論同学鈔』解題(仏全九七・一六二c)参照。

(龍谷大学大学院)